



NEWS RELEASE

報道資料

2009年6月19日

(日本時間)

アプライド マテリアルズ ソーラー発電の意識調査を実施
ソーラー技術に関する誤解の払拭と再生エネルギーの利用促進を目指す
米国民は太陽エネルギーの利用拡大を支持

アプライド マテリアルズ (Applied Materials, Inc., Nasdaq: AMAT、本社: 米国カリフォルニア州サンタクララ、会長兼 CEO マイケル・スプリンター) は 6 月 16 日 (現地時間)、夏至 (6 月 21 日) を前に太陽エネルギーに関する一般市民の意識調査を米国で実施し、このほど集計結果を発表しました。これによると、回答者の過半数はソーラー技術の将来性に期待し、米政府や電力会社に対してソーラー発電の採用を急ぐよう望んでいる一方、一部にはソーラー技術に対する認識が遅れている人もいることが分かりました。

アプライド ソーラーのプレジデント、チャールズ・ゲイは次のように述べています。「夏至は、太陽エネルギーの素晴らしさを実感するにふさわしい日です。アプライド マテリアルズはソーラー技術に対する人々の理解を深めるべく努力しています。ソーラー発電は効率よくエネルギーを供給できるほか、数々の利点を持ち、コスト面でも一部の地域ではピーク需要時に系統電力と比較して遜色のないレベルを達成しています」

調査結果によれば、米国民は太陽エネルギーの利用拡大を支持し、国内のエネルギーミックスに一刻も早く再生可能エネルギーを組み込むよう求めています。

- ・ 回答者の半数 (50%) は、米政府の掲げる「2025 年までに全発電量の 25%を再生エネルギー化する」という目標について、ペースが遅すぎると考えています。
- ・ 回答者の 5 人中 4 人 (81%) は、米国の今後 5 年間のエネルギーニーズを満たす上で太陽エネルギーの果たすべき役割は大きい、としています。
- ・ 回答者の 3 分の 2 以上 (68%) は、電力会社がソーラー発電を発電手段の 1 つに含めるべきだと考えています。
- ・ 回答者のほぼ半数 (52%) は、もし電力会社が再生可能エネルギーの利用を増やすなら月々の電気料金支払い額が増えてもよい、としています。その一方で、支出増には応じられないとする回答者も 41%と多く、ソーラー技術の普及には政府のインセンティブを通じたコストダウンが重要であることが浮き彫りとなっています。

誤解の払拭とソーラーソリューションの提供

「アプライド マテリアルズの太陽エネルギー戦略は、ワット当たりのコストが低い太陽電池セル製造ソリューションでソーラー業界に変革をもたらす、というものです。目標は、太陽エネルギーがグローバルなエネルギー供給の重要な一端を担うようにすることです」とC・ゲイは述べています。

この企業目標の達成に向け、アプライド マテリアルズは太陽エネルギーが秘める可能性について人々の理解を深め、一般に流布している誤解をなくす活動を展開しています。

ソーラー技術は過去 20 年間で大きな発展を遂げていますが、それを知らない回答者も少なくありません。たとえばアプライド マテリアルズは、世界最大サイズのソーラーパネルを一貫生産できる製造ライン SunFab Thin Film Line™ を投入しています。フルサイズの SunFab パネルの面積は従来型パネルの 4 倍にあたる 5.7 m²で、ガレージのドアほどの大きさとなっています。パネルが大型のため出力が大きく、コストも抑制できるのが特長です。ソーラー発電は規模が拡大するほどコストが低下する傾向にあり、これまでも全世界でソーラーの設置が倍増するごとに、ワット当たりのソーラー発電コストは 20%近く下がっています。

この調査で、アメリカ国民が米国内のソーラー発電量を実際よりも多く見積もっている傾向があることも分かりました。5 人に 1 人は、国内エネルギーに占めるソーラー発電の割合を 20%以上と答えています。しかし、実際はまだ 0.01%にも満たない状況です。すでにハワイ、カリフォルニア、ニューヨーク各州などでは、ピーク需要時のコスト競争力が化石燃料による発電と互角になっているにもかかわらず、採用がすすんでいません。

また、回答者の半数以上が最も効率の良い太陽エネルギーの利用方法は家庭用のソーラーパネル施設だと誤解していることも分かりました。実際はより規模の大きいソーラーファームのほうが効率はよいのですが、まだあまり普及が進んでいないのが現状です。米国全土の 1.6%にソーラーパネルを設置すると、国内のあらゆるエネルギーニーズを満たすことが可能です。また、全世界の砂漠面積の 1%をソーラーパネルで覆えば、全世界の人々が必要とする電力を十分賄えるようになります。

さらに、回答者の 4 人に 1 人は米国が太陽エネルギーの利用で世界をリードしていると信じています。実際にはドイツとスペインがトップで、これら両国では政府のインセンティブが大きな成果を上げています。米国が太陽エネルギー利用でリーダーシップをとるためには、連邦、州、地方自治体の各レベルで政策の転換が必要です。シリコンバレーに本社があるアプライド マテリアルズは、ナノマニュファクチャリングテクノロジーを活かし、米国のソーラー市場の急速な活性化を支援しています。Applied SunFab™ タンデム接合薄膜太陽電池製造ライン 1 基

を事業化すれば、年間 80MW の発電能力のあるパネルを生産して、電力使用ピーク時に 35,000 世帯以上への電力供給が可能です。環境に優しいだけでなく、第三者機関の分析によれば、SunFab ライン1 基からなる太陽電池工場は5年間で推計 20 億ドル規模の経済波及効果と 2,500 人以上の雇用創出をもたらす可能性がある、とされています。

全調査結果の閲覧と、アプライド マテリアルズの太陽電池関連事業の詳細については、<http://www.appliedmaterials.com/summer> をご参照ください。

調査方法について

アプライド マテリアルズは、電話調査の計画策定と分析を Ketchum Global Research Network に依頼しました。調査は米国民の人口構成を反映してサンプル抽出した 1,000 人の成人と、ニューヨーク、カリフォルニア、コロラド、テキサス、フロリダの 5 州で各 200 人の成人を対象に、電話アンケートの形で行われました。この調査では再生エネルギーを「自然に存在し、再生される資源（日光、風、潮力、地熱など）から生成されるエネルギー」と定義しています。調査は 2009 年 6 月 5 日から 8 日にかけて Braun Research が実施し、信頼水準 95%での標本誤差は±3.0%です。

アプライド マテリアルズは、半導体チップ、フラットパネル、太陽電池、フレキシブルエレクトロニクス、省エネガラスの製造におけるイノベティブな装置、サービスおよびソフトウェア製品を幅広く提供する Nanomanufacturing Technology™ ソリューションのグローバルリーダーです。アプライド マテリアルズは、人々のライフスタイルを向上させるナノマニュファクチャリングテクノロジーを提供します。

詳しい情報はホームページ：<http://www.appliedmaterials.com> でもご覧いただけます。

このリリースは6月16日米国においてアプライド マテリアルズが行った英文プレスリリースをアプライド マテリアルズ ジャパン株式会社が翻訳の上、発表するものです。

アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社（本社：東京都、代表取締役社長：渡辺徹）は 1979 年 10 月に設立。大阪支店ほか 12 のサービスセンターを置き、日本の顧客へのサポート体制を整えています。

このリリースに関する詳しいお問い合わせは下記へ

アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社
〒108-8444 港区海岸 3-20-20 ヨコソーレインボータワー
社長室：大橋 百合（Tel: 03-6812-6801 / Fax: 03-6812-6831）
ホームページ：<http://www.appliedmaterials.com>
